

充実した研修制度で 世界に通じる人材を育成

米国に本社を構える総合化学品メーカー、
「ダウ・ケミカルカンパニー」。
そのアジア拠点のひとつがダウ・ケミカル日本だ。
理系文系問わず、グローバルに活躍する人材を育成する、
同社の研修制度に注目した。

ダウ・ケミカル日本では、充実した研修制度を通じ、人材を丁寧な育成する体制を整えている。男女はもちろん、理系文系問わず、世界を舞台に活躍することが可能だ。



左から楠井玲奈さん、西村真梨絵さん、荒田夏美さん



(上) CDPの一環として西村さんが参加した上海での3週間の合同研修。毎日英語で営業のシミュレーションを行った。意見を戦わせた同期たちは、よき仲間でありライバル。彼らの活躍は西村さんのモチベーションのひとつだ。(下) 荒田さんの太平洋地域におけるCDPの仲間が東京で集合

ダウ・ケミカル日本の営業担当者は、まず入社1年目にCDPという1年間の研修プログラムを受ける。まずは石油化学業界について学び、その上で配属先に応じた専門的なスキルを身につけていく。なかでも特徴的なのは、アジア太平洋地域で採用となった他国の新入社員と共に受ける営業研修だ。

ポリエチレン営業本部に所属する楠井玲奈さんは、中国、タイ、フィリピン、インドネシア、インド、オーストラリアから参加した同期とともに研修を受けた。「トレーナーを顧客と想定したロールプレイをグループで行ったのですが、発言力のある人、論理的思考に優れている人、意見をまとめることに長けている人など、それぞれの個性に圧倒され、自分自身の個性を磨く必要性を強く感じました」と楠井さん。

CDPでの経験は仕事に大きく役

立っていると語るのは、法人営業を担当する西村真梨絵さんだ。「国際色豊かな同期と互いに意見をぶつけた経験を通し、相手の意見を尊重しつつ自分の意見もはっきり簡潔に伝える大事さを学びました。社内で案件を進めるときも大事なポイントだと痛感しています」

CDP後半は仮配属先の事業部におけるプロジェクト研修を実施。「仮配属になった営業部署で6カ月間のマーケット調査を行い、その調査を基に戦略提案を行います。具体的な商品や想定し、どうい

未経験からグローバルな 営業スキルを習得 コマーシャル・デベロップメント プログラム

営業職として採用されたスタッフは、まずCDP（コマーシャル・デベロップメント・プログラム）という1年間の研修プログラムを受講する。アジア太平洋地域で採用された他国の新人と一緒に受ける営業研修では、「各国の優秀な同期と切磋琢磨できたことで、アジア全体でチームとして頑張ろうという絆が生まれました」と荒田さん。さらに、仮配属先でのプロジェクト研修などを通じ、営業として必要なスキルやものの見方を習得していく。「顧客との面談では営業研修で教わったことがそのまま活かしていると感じます」（楠井さん）。理系文系問わず、やる気のある人を育てる教育・環境整備が充実しているのが、ダウ・ケミカル日本の特徴だ。

マーケットにどんな形で売っていくのか、根拠を示しながらプレゼンしていくのです」と振り返る荒田夏美さん。昨年度CDPを終えたばかりだが、1年間の研修を通じて様々な関係部署の社員に顔を覚えてもらえたことも、営業担当としての強みになるといえる。

CDPを共に受けた仲間はホームのような大切な存在、と口を揃える3人。彼女たちの今後の目標は、優秀な営業の人材を対象としたPCPEPという海外での長期研修に選出されることだそう。意欲を持って働く人をより高みへと導いてくれる同社の研修制度で、多くの女性たちが輝いている。

技術的知識と営業力を活かして 社会が求めるモノづくりの貢献

ダウ・ケミカル日本株式会社 ダウ日本開発センター
パフォーマンス プラスチック TS&D
副主任研究員 森田涼子さん



合成に関する研究からモノづくりの道がスタート

ザ・ダウ・ケミカル・カンパニーは米国ミシガン州に本社を置く世界最大規模の総合化学製品メーカー。森田さんは、その日本法人であるダウ・ケミカル日本株式会社にて2014年に入社し、食品包装や衛生材料などに使われるポリエチレン樹脂の技術担当として、営業活動における技術サポートおよび製品用途の拡大を担っている。

小さい時から数学が好きだったという森田さん。ただ、数学を活かせる仕事は少ないため、大学では化学系に進み、東京大学大学院理学系研究科で合成に関する研究について。

「研究室は実験が多く体力的にかなりハードでしたが、得難い経験ができたと思います。卒業後は、身につけた知識を活かしたモノづくりがたくたくて、電機メーカーに就職しました」

しかし、就職1年目、森田さんに早くも転機が訪れる。なんと、同じ研究室にいた男性との結婚を決断したのだ。「価値観の近い人なのできつとうまくい

く」と決断したのだが、新居は、彼の仕事の都合で静岡になり、森田さんは職場のある川崎まで新幹線通勤になってしまった。片道2時間の通勤とハードな仕事の毎日。結局体を壊し、無念の退職。その後、静岡で日系化学メーカーに転職し、半導体材料部門の研究開発、技術サポート、営業の仕事について。

「営業は初めての経験でしたが、利用者の生の声を聞けるのは新鮮でした。研究室に籠っていると、現場で本当に必要とされているモノがなかなか見えてこない。その実態を知ることができ、勉強になりました」と森田さん。職場は楽しく充実していたが、責任ある仕事を任せて

もらえず、それがだんだん物足りなくなってきた。仕事に情熱を持っていて若い今だからこそ、ステップアップをしたい。森田さんは再び転職へと動き、選んだのがダウ・ケミカル日本株式会社だった。

素材の知識を駆使した 技術サポートを展開

「ダウでは、ポリエチレン樹脂のお客様に対し、技術的なニーズに対応するという仕事に携わりました。新製品として求められているモノ、あるいは、既存の製品に対する不満などを吸い上げ、解決策を探ります。条件に合う製品探しや改良点提示のため、海外メンバーとの相談、交渉も行います。技術的な知識

と営業の経験を活かし、お客様の求めているモノを提供する、やりがいのある仕事です」

また、直属の上司は上海に常駐しているため、現場での顧客対応などは、自分の裁量で進めることができる。まさに、転職前に希望していたことがすべて叶えられたと、森田さんはいこやかに語ってくれた。

「実は、ダウに就職するまで、ポリエチレンについての知識は、ほとんどありませんでした。でも、携わってみると、たとえばコンビニで買うカップ麺の調味料や納豆のタレの包装材料など、ポリエチレンはあらゆる場面で使われる貴重な素材だとわかりました。多くの人が使うモノを作れるという喜びは、理系の仕事ならではの醍醐味ですね」



森田さんが担当するポリエチレン樹脂の入った袋。25キロ入りで最小単位



技術系の職場なので男性が多いが、他のオフィスの女性との交流も欠かさない



★仕事の必須アイテム★

ポリエチレン樹脂や樹脂を加工したフィルムから得られる様々な技術データが、課題解決や新しい提案に欠かせない

森田さんの1日のスケジュール

- 7:00 起床 (家事、犬の世話、朝食用意、掃除など)
- 10:30 出勤 (フレックス制度を使って、通勤ラッシュを避けて出勤)
- 10:30 メールチェック・返信 (夜の間に海外から来たメールのチェック・返信)
- 11:00 顧客引継、社内打ち合わせ
- 12:00 ランチ (散歩しながら、外でランチ)
- 13:00 会議 (上海の上司と電話会議 [英語])
- 14:00 レポート作成 (前日訪問した顧客についてのレポート作成、実験依頼作成 [英語])
- 15:00 フィルムの観察実験
- 16:00 技術報告書作成 [英語]
- 18:30 退社
- 19:30 帰宅 (家事 (夕食作り、犬の世話、ゴミ捨てなど))
- 22:00 電話会議 (自宅にてアメリカのR&D (研究開発グループ) と電話会議 [英語])
- 23:00 お風呂などリラクスタイム
- 24:00 就寝

仕事は順調なときはプライベートも充実するもの。森田さんは結婚7年目にして、母親になる予定だ。仕事が軌道に乗った今だからこそ、気持ちにゆとりができて、妊娠も素直に喜べたそうだ。

「ダウは多様な働き方を認めてくれる会社。フレックス制度も有名無美化することなく、社員にきちんと浸透しています。朝は10時半まで出勤すればいいので、私も妊娠中、通勤ラッシュにあわず、本当に助かりました。来春には復帰予定ですが、

その際もフレックスのほか、在宅勤務制度などを活用する予定です。出産後のことはちょっと不安もありますが、この会社だったら、仕事の質を落とすことなく、効率よく働けると思っています」

さまざまな困難も前向きに受け止め、客観的に判断し、やりがいのある仕事を得た森田さん。今後、母となり、新たな視点を得ることで、それを製品づくりや、より充実した働き方に活かすなど、さらなる活躍をしてくれるに違いない。

理系の知識を活かしたモノづくりは 社会とのつながりが実感できます

理系の知識を持っていれば、さまざまなモノづくりの現場に関われるので、仕事にも幅が広がります。誰もが日常で使うモノを作っていると、社会の役に立っていると実感でき、やりがいを感ぜられますよ。実験など、理系の研究室はハードですが、それをやり遂げれば自信もつくはず。まだ女性の少ない世界ですが、自分のやりたいことを見つけて頑張ってください!



DATA

ダウ・ケミカル日本株式会社

世界最大規模の総合化学製品メーカーで米国に本社を置くザ・ダウ・ケミカル・カンパニーの日本法人。原料から川下製品まで、消費者に快適な生活をもたらす各種化学製品素材を提供している。技術革新と科学の力を結集し、清潔な水、再生可能なエネルギー、作物の生産性改善など世界が直面する課題の持続的な解決に取り組んでいる。

【業務内容】各種化学製品の製造・輸入販売、及び技術サービス提供ならびに関連研究開発

本社 ●東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー
代表者 ●ピーター・ジェニングス 連絡先 ●TEL.03-5460-2100
URL ●http://www.dow.com/japan/